



大阪市立大学  
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第28号

2013年（平成25年）2月20日発行

# 同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8 3 7 3

FAX 06 (6605) 2 7 6 9

発行人 宮本 万功



建部 渉作

## 《 目 次 》

|   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 表紙絵題名「金環日食の朝(Annular Eclipse out of the shadow of tree)」…………… 2 | 全学同窓会《大阪市立大学同窓会》発足……………11       |
| 宮本会長・日野名誉会長の挨拶…………… 2   | 学友会を教育後援会へ改組……………13             |
| 学科の近況・会員短信（機械工学科）…………… 3  | 平成23年工学部卒業生名簿……………14            |
| 〃          （電子・物理工学科）… 5  | 〃    工学研究科修了生名簿……………15          |
| 〃          （情報工学科）…………… 7                                       | 〃    工学部入学生名簿……………16            |
| 〃          （化学バイオ工学科）… 7  | 〃    工学研究科入学生名簿……………17          |
| 〃          （建築学科）…………… 9  | 工学部同窓会事務局年報……………18              |
| 〃          （都市学科）…………… 9  | 平成25年評議員会案内・工学部電話番号・後記……………19   |
|   | 平成25年“同窓懇親パーティー 2013”の案内……………20 |

## ご挨拶

工学部同窓会会長 宮本 万功



「工学部同窓会だより」の発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。

平素は同窓会活動にご理解を頂き様々な活動にご協力を頂いていることに感謝申し上げます。

皆様もご覧になったことと存じます。が、「平成24年9月26日の読売新聞で、

『大阪都』大学、16年度開校…府立・市立統合」との報道がなされました。

大阪府・市の統合問題が動き出したのを機に、かねてより懸案になっていました全学的同窓会「大阪府立大学同窓会」の設立を実現するために、大阪府立大学同窓会連絡会で密度の高い議論が頻りに重ねられた結果、2012年11月3日に児玉隆夫元市大学長（院理・昭43）を初代会長、7つの学部同窓会々長を副会長とする全学統一同窓会「大阪府立大学同窓会」が発足しました。

この同窓会は、前身校を含めたすべての卒業生・修了生を正会員、学部学生・大学院生を準会員とし、本会の目的に賛同し事業活動を支援下さる個人及び団体を賛助会員とする3種類の会員をもって構成されます。

主な事業としては、大学と会員や会員相互の連携・交流に関する事業、大学の発展を支援する事業、各学部同窓会の諸活動を支援する事業などが予定されています。

本会の活動経費は、大学支援事業費・学部同窓会負担金・個人と団体からの寄付金などをもって充てられることになっていまして、その本部と事務局は、大阪市住吉区杉本3丁目3番138号大阪立大学内に置かれます。

また、2005年に設立された学友会は、大阪府立大学コミュニティの形成のみならず十分な会員の確保にも今後の進展が見込めないことから、2013年4月1日をもって保護者会員を主にして在学生の支援に特化した新しい「大阪府立大学教育後援会」に改組されることになりました。

昨年までの7年間学友会が行ってきた同窓会費の一括徴収は、本年度から停止されますので、各学部同窓会が本年の同窓会費を独自に徴収することになりました。

当会の理事会では同窓会の継続的な活動に必要な経常費をどのように確保していくか検討する中で、今後母校が府大と統合・再編された場合などを想定した年会費の導入も課題になりましたが、各学部同窓会が以前と同様に「入学時に準会員として同窓会費を納めていただく」ことに纏まりました。

当会は、本年3月の工学部および他大学からの工学研究科への新入生に対して、同窓会活動の案内・入会と同窓会費納入の要請を独自に再開しますが、随時のご寄付へのご協力もよろしくお願ひします。（機械・昭和43年卒）

### 表紙絵のコメント及び作者の略歴

2012年5月21日午前7時25分頃に隣家の塀に美しく現れた金環日食の木漏れ日を写して仕上げた（絵）作品。第29回水墨画玄墨展にて大阪府教育委員会賞受賞

1937年：岡山県生まれ

1962年：大阪府立大学工学部電気工学科卒業

2001年：大阪府立大学工学部教授定年退職

## 工学部・工学研究科の近況

名誉会長 日野 泰雄



昨年4月より研究科長・学部長を拝命しました。佐藤嘉洋副研究科長と向井孝彰教育研究評議員と研究科・学部の運営に当たっています。

ところで、今年3月11日にJR杉本町駅の東改札口が開設されました。その実現には、本学の教員有志や地元の方々のご苦労があったところです。

また、生活科学部の敷地内には、2008年にノーベル物理学賞を受賞された南部陽一郎先生のお名前に因んだ「南部ストリート」が整備され、学生・教員が木漏れ日の中を快適に通行しています。南部先生は1949年から56年まで本学理工学部理論物理学教室を担当されました。ノーベル賞といえば、昨年、山中伸弥京都大学教授が生理学・医学賞を受賞されたことは記憶に新しいと思います。山中先生も1989年に本学医学研究科後期博士課程に入学され、1993年に博士（医学）の学位を授与されています。

又工学部では、新学科〔（機械、電子・物理、情報（平成25年度からは電気情報に名称変更）、化学バイオ、建築、都市）〕体制の学生諸君が、今春にはいよいよ卒業です。そして、今年度新たに学部生288名、大学院生216名（前期博士課程198名、後期博士課程18名（内3名10月入学））が入学・進学しました。なお、学部生一人には、同窓会で創設いただいた奨学金が適用されました。学部入試では、ひと頃の理系離れから脱却して受験生が増加しています。その傾向はオープンキャンパスの参加者にもみられ、今年は3,190人と前年比+8.5%で最高記録となりました。また、就職も順調で、大学として、入口と出口でしっかりとした体制が確保されています。

しかしながら、社会情勢の変化はめまぐるしく、阪神淡路大震災からわずか16年後、想定外と言われた東日本大震災が発生し、多くの方々が犠牲になりました。特に福島第一原子力発電所の事故に至っては、フェイルセーフの概念に基づくリスク管理技術やエネルギー源の開発・確保といった、新たな技術革新が求められるといった事態を招いています。

一方で、新聞等の報道でもご承知のように、府市統合本部の下に新大学構想会議が設置され、府大ともども各部署がヒアリングを受けるなど、めまぐるしく事態は展開しています。本学では、法人統合本部と各部署で、今後の大学改革について議論が重ねられるとともに、学長指名の教授によるプロジェクトチームも設置されて、全学横断的な改革の方向性が検討されています。また、このような大学改革を検討するための特命副学長として、大嶋 寛前研究科長が就任され、新たに設置された人事委員会委員長も兼任されるなど、研究科長時代と変わらないほどに多忙を極めておられます。

一部勇み足的新聞報道もありましたが、今後どうなるかは確定していません。いずれにしても、「万事塞翁が馬」の如く、時の変化に一喜一憂することなく、先人の築かれた本学の歴史と伝統を後人に伝えていきたいと考えています。同窓会の皆様には、本学工学部の行く末にお気遣いいただきながらも、本務でのご苦労も多いことかとお推察申し上げますが、益々のご活躍と本学へのなお一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

（工学研究科長・工学部長・工学研究科教授）

## 機械工学科 (旧機械・旧知材)

### 機械工学科の近況

横川 善之



卒業生の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。

早速、機械工学科の近況についてご報告いたします。

昨年春、58名(留学生2名、女子2名)の新入生を迎えました。また、平成21年度から新機械工学科の学生募集が始まり、昨年春はじめて、新学科の学生が進級し各研究室に配属されました。新学科では、2回生後期に3つのコース(環境エネルギー、システムダイナミクス、マテリアルデザイン)の一つを選択します。昨年は、選択コースに拘らず研究室を希望する学生が多く、図らずも幅広く学び、研究を行う学生が多いという結果となりました。

旧学科(機械工学科、知的材料工学科)の各30名が卒業しました。それぞれ進級21名と18名(うち他大学進学各1名を含む)、就職8名と9名(うち1名公務員)です。大学院機械物理系専攻は36名全員が就職しました。

次に、教員の近況をご紹介します。昨年4月、山崎准教授が教授に昇任し、中村篤智講師が准教授として名古屋大学へ異動しました。中村講師は平成17年に採用され、講義、研究指導に携わり、熱心に学生を指導されました。今後のご発展を祈念いたします。

最後に、政府等財政悪化により我が大学も変革が求められています。一方、我が国においては国際競争力の低下の歯止めと改善は喫緊の課題であり、大学には今後も益々優れた人材育成が期待されています。大阪市立大学工学部機械工学科(旧機械工学科、知的材料工学科)は大阪の地にあり長年に亘り、産業界、経済界に人材を輩出してきました。今後も益々、人材育成を加速すべく、従前通り、地に足を付けて学術的・社会貢献に邁進していきたいと存じます。卒業生の皆様には、今後とも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科教授・機械工学科主任教授)

### 「大学史の源流を訪ねて」読後感想

丸山 公一



2011/10/31発行を読んで様々な想いが頭をよぎり、思わずペンをとりました。

「大学史の源流を訪ねて」の配布を頂き、数十年の昔を思い出しました。(旧姓)

1. 現在23機会<同窓会の名称>のメンバーのうち、昭和22年夏の学園祭の時に金田龍之介とともに演劇「生命の冠」の舞台にたった伊藤俊夫・丸山公一や、その年の大阪市立女専との合同演劇部の立ち上げに参加した嶋田(旧姓池田)定・板東隆史および効果音響をうけもった平野輝夫・堂岡肇の諸君たち、ともに健在でなにより。

2. 宮尾(旧姓小野)信昭さんは、溶接の権威であり、私の

仕事のうちで後輩に、教えを頂いた事もありました。

村田(旧姓中西)昭・伊藤和実さんは都島工業の先輩で金井重要工業に勤められ現在も会の会合でいろいろお世話になっております。

3. 南条孝一郎教授は、都工・工専を通じての機械科長であり、大阪大学で化学と機械工学を重ねて専攻されたと承っている。

工専の担任の部谷尚道教授は都工の二年生の時の担任でもあった。重ねての指導をうけたが、工業学校四年生の勤労働員の蒸気機関駆動のポンプの製作組立て経験と併せて、卒業後3年間のブランクの後に南条先生の斡旋で入社できた空調工事会社において、「水力学」「冷凍機」の教えはすぐ実践に役立った。

工業学校から鍛えられていた「機械製図」は、工専時代の戦後のアルバイトで糊口をしのぐことや、空調会社入社後も大いに役立ち、現場担当者として先輩に伍して行くことができた。(現在ではコンピュータ作図の時代であり、手書きではないが)

4. 「母校の思い出」をお書きになった小河一眞佐(6期建築)さんとは、昭和26年より27年に掛けて、戦後大阪御堂筋復興の最初となった大和紡績本社ビル建設現場において、設計事務所と空調の担当者として約1年若者として、ともにおおいに勉強になった。思い出のなかに登場する飯田君こと良一さんとは東レの本社において何度かお会いしていたが、金田龍之介の出席した市立女専とのOB会でもご一緒した。

植木正富さんには、この「都華の会」の連絡担当者として、いろいろとお手数をおかけしたが、すでに鬼籍に入られて金田さんと語り合っておられるであろう。

5. 機械6期の山岡昭男さんは、私と共に空調会社に南条先生の紹介で入社したが、大阪万国博覧会の地域冷房用大型冷凍機の設置、アメリカ館の空調設備、本部ビルの空調の指導に参加された。

6. 4期生の富家さんが、当時の自動車会社に入社したころの思い出を記述されていた。2期の白曼正一さんがすでに、先輩として在籍されていて、卒業前に南条先生から丸山は自動車会社に行かないかと、お話があったが、なまいきな私はもっと大きな物をやりたいと、日立造船を受験した。同期の玉置昭男君は見事合格、こちらは駄目。

数年後、彼は企画本部に在籍し、たまたま見学を訪ねて行った私を鯨のキャッチャーボート新造船に案内してくれ、嬉しかった。彼の力量からして将来が期待されたが病に斃れた。(現在なら新業できっと治ると思う)

\*卒業以来60年有余年、軽い歩行不自由ながら口と手は元気です。工専各位に深謝。

(機械・昭和23年卒)



(磁性流体の針状構造)

## 永遠なれ！23機会

昭和23(1948)年卒業の工専機械科の面々です！

村田 昭



昨年(2012、平成24年度)も23機会の同窓会を開催しました。

日時：11月9日(金) 11:00集合

12:00開宴 場所：大阪弥生会館

というわけで、会員に通知し出欠返事に夫々の近況を記入してもらいました。

その近況集を披露し、齢80有歳の老人達の生活振りをピックアップしたいと思います。

- ・伊藤俊夫：永年病気だった家内が元気になり、毎日がホテルで暮らすようで感謝の毎日。「八十路踏む吾れの行く手に山笑う」
- ・池木久君の奥さんよりTelありました。「7/5に急死しました。持病の心臓疾患で通院続けていたが、検査結果で悪い数字改善の為、心臓と共に肺臓の薬も併用となった。ところがその肺臓の薬が災いし急変した。誠に本人も不本意だったと思う。残念です」と。…深く御冥福をお祈りします。
- ・梅田正：野田総理の記者会見を聞きながら欠席通知を書いています。常時酸素吸入しながらの医者通いです。
- ・小林平三郎：腰痛が持病になって、リハビリの為コナミススポーツの会員になり、水泳を続けている。妻、長兄を亡くし一人暮らしです。
- ・佐古田敦己：体調悪く欠席する。昨年から米作りを止め夫婦で野菜作りを始めた。秋の文化祭でオカリナの演奏を予定し宗次郎の曲を練習しています。
- ・堂岡肇：毎日プール通い。時間つぶしにパズル「数独」にはまっています。
- ・西村貞雄：昨年初め、脳梗塞で倒れたが家族の初期看護で助かり、後遺症もなく元気。カラオケ同好会で唄い肩組んだ学生時代の青春を思い出しています。
- ・平野輝夫：先ず先ず生きています。
- ・丸山公一：歩行は不自由ですが、口と手は元気です。「大学史の源流を訪ねて」の読後感想を書きました。送ります。(大学史資料室に送付予定、コピーは出席者に配布)
- ・宮尾信昭：若き日、苦勞したESAB\*での溶接棒の実習などを思い出しながら今も溶接棒の勉強を続けています。

\* (Oscar Kjellbergsが1904年に溶接棒を発明し設立した会社でグローバル溶接材料の会社として現存するスウェーデンの有名会社)

- ・村田昭：3年前妻は亡くなり、長男次男は月に2～3度顔を見せる以外、独り住まい。最近 蜂蜜 の入浴剤を購入珍重しています。皮膚がしっとりとし荒れません。テレビ・パソコン・アマチュア無線・生協で日常食品、ワタミで夕食が続いています。
- ・山中博：本人は元気ですが、家内入院中で介護の毎日です。

FOREVER 23機会！！

(機械・昭和23年卒)

## 近況報告

池田 一哉



1989～1992年にかけての3年間、内燃機関研究室でお世話になりました。研究室では希薄燃焼の制御にファジー制御やニューラルネットワークを用いて知能化しようというテーマに取り組んでいましたが「内燃研」というよりは「制御研」、プログラムをいじっている時間が圧倒的に長くなり、プログラミングの勉強そのものに嵌って本業を忘れることが多々あり先生方にはご心配をお掛けしました。

昨年で入社後20年、一貫して鉄道車両の台車設計という部署に属してはおりますが、上記の経験が昂じてか1995～2003年の9年間は鉄道車両の運動シミュレーションプログラムの改良からマルチボディ・ダイナミクスの導入までを担当し、他の設計者とは違った経歴を辿ってきました。

2003～2005年の約3年間は低床路面電車の連結部機構の現物設計を担当しましたが、これも最初は「どのような車両構成にするのがよいか評価するため運動シミュレーションだけ実施する」ということで始めたものが「そこまで主張するなら設計までやってくれ」となり、これがその後現物の設計に軸足を移すきっかけとなりました。

その後の7年は、やっと部署名通りの台車設計担当となり、経験不足のハンデを感じつつも得意分野を生かしながら対応能力を高めるべく励んでいるところです。

最後になりますが、同窓会皆様方のご活躍とご健勝をお祈り致します。

(機械・平成2年卒・同4年前期博士課程修了、近畿車輛株)

## 近況報告

中西 広平

卒業生の皆様におかれましては、各方面でご活躍のことと存じます。

私は昨年度より西日本旅客鉄道株式会社に入社し、車両を检修する業務に就いております。私が当社に入社した動機は、鉄道事業は社会との繋がりが強く、多くのお客様の暮らしをサポートすることができ、車両という大きな機械を扱うにあたって知的材料工学科で学んだ材料や機械の知識を活かして社会に貢献できると考えたからです。

私達の使命は安全な鉄道を安定してお客様に提供することであり、その為にたゆまぬ努力を続けていかなければなりません。その中で、私が携わっている車両部門の仕事は、車両の状態を定期的に点検し、部品の交換や修繕をして常に安全で高品質な車両を作り上げることです。実際にお客様が乗車される車両に触れるということは、一つ一つの作業にお客様の命をお預かりしているという重みがあり、責任が大きいものではありますが、それだけにとってもやりがいのある仕事でもあります。現在私は実習生として現場で先輩方の指導を受け、技術・技能を磨いているところです。技術者としてはま

(次頁へ続く)

だまだ駆け出しではありますが、一日でも早く一人前になれるように日々自己研鑽をしていく所存です。また、私はもともと鉄道が特別に好きといったタイプの間人ではありませんが、知れば知るほど奥が深く、今は鉄道の魅力に惹かれています。皆さんも当社の列車に乗って頂いた時にその魅力を感じ

ていただければ幸いです。

最後になりますが、大阪市立大学の先生方には多大なるご指導、ご鞭撻を頂き改めて御礼申し上げます。そして皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(知材・平成24年卒・西日本旅客鉄道株)

## 電子・物理工学科 (旧電気一部・旧応物)

### 電子・物理工学科の近況

中山 弘



卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

一昨年は3.11東日本大震災があり、未曾有の被害を受けました。また福島原発事故は私ども工学に携わる者としては、事故の原因や被害の処理と対策、使用済み核燃料の処理、再生可能エネルギー技術、未来のエネルギーシステムなど、避けて通ることのできない課題を突き付けられています。

さて、学科再編により発足しました、電子・物理工学科は平成24年度で新4年生を迎え、応用物理学科から電子・物理工学科へと全面移行となりました。昨年度の人事異動は、電磁気学分野にパワーエレクトロニクスがご専門の重川教授が着任(4月)され、応用分光計測学分野の熊谷教授が転出(7月)、さらには光物性工学分野の准教授の金先生がナノマテリアル工学新分野の教授に昇任されました。現在の研究分野は、プラズマ工学(白藤教授)、パワーエレクトロニクス(重川教授)、光物性工学(中山正昭教授)、物性制御工学(中山弘教授)、波動物理工学(細田教授)、応用分光計測学(小林准教授)、数理工学(寺井教授)、ナノマテリアル工学(金教授)の8分野です。世界をリードする研究を推進し、真面目で、粘り強く、独創性に富んだ市大生を育てていく体制です。

ただ、危惧する点は、「府大・市大統合型の新大学構想」が我々教員、学生、卒業生の意見が反映されないまま進んでおり、それが「知の創造と文化の砦」、「リベラルな市民派大学」としての大阪市大の栄えある伝統を傷つけることにならないかという点です。先輩諸兄には、なにとぞご支援をお願いします。

(工学研究科教授、電子・物理工学科主任教授)

### 近況報告

高道 和博



卒業生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。電気工学科を卒業して早9年が経ち入社した近鉄での社会人生活も軌道に乗ってき

も入ってきて心強く感じるとともに、卒業生でありながら市大電気工学科の力強さを感じています。

入社した近鉄では主にお客様の安全を確保する保安装置(信号や踏切をはじめとした安全装置)の計画と設計を担当しています。世間は景気低迷と少子高齢化のあおりを受け消費が低迷し明るい話題は少ない中、当社も例に漏れず同じような状況ですが、それでもお客様が求める安全レベルは年々高まり、安全であって当たり前という期待に応えなければなりません。鉄道の電気技術は革新的な変化がありません、いまだに昔ながらの技術が多く使われていますが、それでも時代の変化に乗り遅れないよう「守るべきもの」と「変えるべきもの」を見極めながら、日々効率的な運営と改善に取り組んでいます。

同窓会だよりへの寄稿を引き受けて初めて気付いたのですが、卒業後個別には時々同級生と交流しているものの、大きな同窓会は開催されていないのかなと思っています。最近はSNSを用いたインターネット上の交流が可能となり、思わぬところで懐かしい同級生とつながることができましたが、やはり直接会って話をする付き合いにはかないませんので卒業後約10年の区切りということで久しぶりに一度集まってみますか？

最後になりましたが、皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

(電気・平成13年卒・同15年前期博士課程修了・近畿日本鉄道株)

### 近況報告

葉山 幸治



月日が経つのは早いもので、振り返れば、大学院を修了してから7年あまりが過ぎました。日々の仕事に追われる毎日、日頃はあまり意識しませんが、毎年、春先にリクレーターとして市大を訪問させていただく際、ご指導を賜っていた先生方がご退職されていることを知ったときなどに、ふと、月日の流れを感じます。大学の雰囲気や、私自身の気持ちは当時とあまり変わらないのに不思議なものです…。

会社生活においても、気づけば、重要なプロジェクトや後輩の指導も任されるポジションになりました。それと同時に、社内はもちろんのこと、社外でも様々な立場の方々との交流の機会も増え、人脈の広がりを感じています。その一方で、同期をはじめとする大学時代・大学院時代の友人と会う機会は徐々に減り、一抹の寂しさも覚えます。

(次頁へ続く)

さて、話は変わりますが、急に寒くなってきておりますが（執筆時は11月中旬）、皆様、くれぐれも体調を崩されないようご自愛ください。ところで、視点を変えると、学生時代から続けているスキークラブの季節を迎えようとしています。私ごとですが、3年前、社会人スキークラブに入会しました。昨シーズンも、大会での上位進出や検定合格など、目標に向かって精力的に取り組みたいと思っておりますが、暖冬との長期予報もあり、どうなることやらと多少の不安もあるこの頃です。

突然の近況報告の執筆依頼を受け、何を書いたものやらと思案しながらの執筆でしたが、お付き合いくださり、ありがとうございます。また、乱筆乱文、お許しください。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

（電気・平成15年卒・同17年前期博士課程修了・住友電気工業株）

## 近況報告

藤本 裕介



2008年に修士課程修了後、エアコンメーカーに就職し、現在、業務用エアコンに搭載されている電装品の開発を行っています。エアコン内の電装品は様々な技術が集まり構成されており、主にインバータの設計に取り組んでいます。この技術はエアコンの省エネにとって欠かせない技術です。インバータの普及率は日本では、ほぼ100%ですが、海外ではまだまだ低い国が多いため、主に欧州、アジア、北米への展開を目指し開発を行っております。

このような開発を行う上で得た貴重な経験としては、海外でのシェアアップを目指し、海外拠点と協力し開発を進めるため、単身で北米へ渡り現地のエンジニアと意見交換を行ったことです。文化・習慣は各国で大きく異なるため、その土地の風土に合ったエアコンの設計がとても重要で、そういった場に私も参加し意見できたことはとても貴重な機会でした。思い返すと、研究室時代に国際学会で発表する機会を設けていただき、先生方に何度も発表資料・原稿の手直しをしてもらいながらも、英語での発表を経験できていたことで、自信を持って発言することができたと思います。

また、学生時代の友人は今でも貴重な財産だと感じています。会社へは研究室から3人同期入社しています。同級生は、仕事では頑張るモチベーションとなり、プライベートは話し合える貴重な存在です。

私は卒業後毎年、リクルーターとして研究室訪問をさせていただいており、先生方には未だにお世話になっておりますが、学生たちとの対話の中で社会や企業というものを身近な立場から伝えていくことで、恩返しをしていけたらと思います。

最後になりましたが、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。  
（応物・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・ダイキン工業株）



同期生の結婚式

## 近況報告

浅井 空太



寒い気候が続く中、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。私は、平成24年3月に工学研究科を修了し、電機メーカーに就職しました。大学院を修了してから、もうすぐ一年になります。その間一体私はどれ程成長し、どれ程の付加価値を生み出したのかと自問

自答してみても、私は答えを詰まらせてしまいます。給料泥棒と石を投げつけられても、投げ返す術を持っていないのです。加えて、日本の製造業は世界の中で窮地に立たされ、とりわけ電機産業は、厳しい環境にさらされています。大きな赤字を出すメーカーも少なくありません。社会の為、生成発展すべき企業にとって、本来赤字はあってはならないことです。お客様に背負い投げされても、受け身をとることさえ許されないのです。

そんな中、新入社員である私は、一体何が出来、何をすべきかを、必死にもがき考えなければなりません。時代、周りの環境、会社等をいわけにする他責の考えでは何も変わりません。どんな理不尽な事が起ころうとも、男は歯を食いしばって眠り、黙って明日の自分にかけるのです。

先日、会社帰りの満員電車の中、座席で熟睡していると、後頭部を金属バットで殴られたような衝撃で目が覚めました。何ごとかと思っただけ目を開けると、赤くて長いハイヒールの先が、私の足の甲に刺さっているではありませんか。不思議なもので、後頭部にくるのですね。調べると、体重50kgの女性のハイヒールに踏まれる圧力は、象に踏まれる以上のものだそうです。あまりの痛さに大声で叫ぼうかとも思いましたが、いえいえ、私はそんな身分ではございませんので、いつものように、歯を食いしばって眠り、黙って翌朝病院に行きました。

（応物・平成22年卒・同24年前期博士課程修了・パナソニック株）

## 情報工学科 (旧電気一部・旧情報)

### 情報工学科の近況

高橋 秀也



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年度は、平成21年4月から旧電気工学科の一部と旧情報工学科を統合し、新情報工学科体制(定員42名)に移行してから最初の学生を送り出す年度となります。

現在の情報工学科は、旧電気工学科の3分野と、旧情報工学科の5分野からなる、8分野体制となっております。大学院の体制はこれまでと変わらず、電気工学講座、応用物理学講座、情報工学講座の3講座で教育研究を行っております。

学生たちの近況ですが、4回生は、46名中、31名が本学大学院進学、2名が他大学大学院へ、8名が就職内定となっております。前期博士課程では、旧電気工学講座の3分野と旧情報工学講座の5分野に所属する39名中、1名が後期博士課程進学希望、残り38名が就職を内定しています。

昨年度の就職については、昨今の景気の影響でますます厳しさを増して一昨年度以上に厳しい状況でありましたが、修了卒業予定のほとんどの学生の就職が決まりほっとしております。しかし、昨今の就職状況から、より社会のニーズにあった人材を輩出する必要を感じており、旧電気工学科と旧情報工学科が融合したことによる利点を明確にし、ハードウェア技術とソフトウェア技術の両方に通じた教育研究を目指し、平成25年4月から学科名を電気情報工学科と改め、新たなスタートを切るところでございます。教員一同、一層の努力をしておりますので、引き続き、卒業生の皆様のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

(工学研究科教授・情報工学科主任教授)

### 近況報告

丸橋 弘明



朝夕はひときわ冷え込むようになりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は2012年に情報工学科を卒業し、映像関連のソフトウェアを開発している会社に入社しました。

ソフトウェアの開発自体は学生時代からサークル活動や情報工学科の実習などで経験があったので、簡単な研修が終わってから現在の部署に配属され、すぐに仕事を任されるようになりました。学生の時の趣味レベルでの開発と大きく違うのは品質管理についてです。特に設計については、実装を行う前に各機能の担当者同士でよく確認し合い、できるだけ瑕疵が無いようにする必要があります。設計を間違えると後の不具合につながり、その不具合も修正しにくいという悪循環に陥ってしまいます。ソフトウェアの不具合の問題については、この業界全体の課題であり、近年では様々な開発手法を用いて対策がとられていますが、なかなかうまくいっていないのが現状です。利用者の不便につながる不具合を減らすよう、さらなる努力が求められていると思います。

さて、近年タブレットやスマートフォンが流行し、弊社でもそういった案件が増えています。私も現在はタブレット向けソフトウェアの開発をしております。短期間、少人数での開発ですので、最近が残業の日々。年が明けてもしばらくは忙しい日々が続きそうですが、一人前の技術者になるために、勉強を怠らないようにしたいと思います。

拙文ではございますが、このような時期にこの投稿をご推薦くださった柳原先生に多大な感謝をしつつ、近況報告とさせていただきます。

(情報・平成23年卒・(株)ピクセラ)

## 化学バイオ工学科 (旧生応化・旧バイオ)

### 化学バイオ工学科の近況

東 雅之



卒業生の皆様のご健勝とご活躍お喜び申し上げます。化学バイオ工学科では、平成21年の応用化学科とバイオ工学科(その前身は生物応用化学科)の統合後、初めて新学科の卒論学生(4回生)を各研究室に迎えています。学科名は変更されましたが、着々と皆様方の後輩は育っています。教員組織につきましては一昨年度より変更はありません。応用化学系とバイオ工学系ともに各5分野から構成され、計19名の教員で協力しながら研究・教育に鋭意努力しています。無機工業化学分野の有吉欽吾講師は、平成25年3月末まで長期海外出張中で、米国にてご活躍中です。

化学バイオに関連する分野での大きなニュースとして、一時期大阪市立大学医学研究科に籍を置かれた京都大学の山中

伸弥教授がノーベル賞を受賞され話題となりました。学生時代に細胞や遺伝子を扱った方々には、非常に親近感を覚える受賞だったと思います。多くの方が日本人の受賞を喜んだと同時に「夢を持つ」「あきらめない」という言葉を思い起こしたと思います。少し前ですが、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワからサンプルリターンした時も全く同じ感覚を覚えたと思います。昨今の学生の就職状況は、当学科では比較的恵まれた状況ですが、それでも以前と比べると厳しい状況です。現在の社会情勢ではつい考え方が現実的になりがちです。我々教員も多忙さからつい目先のことを優先してしまいますが、科学技術に携わる以上は、学生とともに「夢」を持つ学科であり続けたいと思います。是非皆様もそれぞれの夢を追いかけて豊かな人生を送って下さい。

最後になりますが、今後の皆様のご活躍を祈念しますとともに、引き続きご支援とご鞭撻をよろしくお願い致します。

(工学研究科教授・化学バイオ工学科主任教授)

## 近況報告

中嶋 浩善



卒業生の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は1999年に応用化学専攻前期博士課程を修了後、住友化学工業株式会社（現：住友化学株式会社）に入社し、樹脂材料（ポリプロピレン）の研究開発業務に従事しております。在学時は、米澤研究室（現：工業物理化学研究室 米谷グループ）にて、人工生体膜やシアニン色素凝集体に関する研究テーマを担当させて頂きました。当時は米澤先生が市大に着任されて日浅く、実験設備の関係から、京都と大阪を行き来しながら実験を進めたことが、昨日のように思い出されます。勤務先の千葉県では、13回目の年末年始を迎えました。

入社6年目までは、ポリプロピレンの基盤技術研究に従事し、留学等を通して社内外の多くの方々と一緒に頂くことができました。この期間に得た知識や経験は、在学時に学んだことと同様、現在の自分にとって、大きな糧となっています。入社7年目以降は、自動車の外装材（バンパー）や内装材（インストルメントパネル）に用いられる材料の開発に従事しております。現在は、開発品を搭載した自動車を街中でみることを目標に、お客様である自動車メーカーの技術者の方々や議論しながら、材料開発を行う日々を送っています。最近では、海外（特に新興国）のお客様と仕事させて頂く機会もありますが、文化の違いによる新たな発見があるのも本業務の魅力のひとつです。

恩師や先輩・後輩の方々には、夏季や冬季の長期休暇にて帰阪した折にお会いし、近況などお話しさせて頂けるのをいつも楽しみにしております。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（応化・平成9年卒・同11年前期博士課程修了・住友化学㈱）

## 近況報告

土屋 嘉克



卒業生の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は2011年に化学生物系専攻後期博士課程（圓藤研究室）を修了後、信越化学工業株式会社に入社し、汎用樹脂の一つであるポリ塩化ビニル（PVC）の製造に関する研究・開発に従事しております。

PVCの生産が工業化されたのは80年以上も前のことですが、樹脂の性能、製造プロセスは未だ完成を見ず、現在も進化し続けています。ラボスケールとは程遠い立米単位の重合器を扱うためクリアすべき課題が複雑化しがちですが、製造プロセスに関する知識を学びつつ、専門としていた高分子合

成化学の知識を活かし日々研究を続けております。まだ入社して日が浅いため私の研究テーマは現場化までは至っておりませんが、周囲の諸先輩方は20歳代で現場試作・現場化の経験があり、若い時から製造現場に直結して役立つ研究のできる良い環境だと感じています。

市大から直線距離で500km離れた茨城県の鹿島臨海工業地帯に私の職場があり、生まれて初めて大阪を離れるという不安がありました。同じ地区に学生時代からお世話になっていた先輩がいらっしゃったり、関東で年一回行われる市大高分子研出身者の忘年会に参加したりと、大阪を離れても意外に寂しくないもんなや、と感じながら仕事を楽しめています。既にご活躍されている市大ご出身の諸先輩方に続けるよう私も一所懸命頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（化学生物系専攻後期博士課程・平成23年修了・信越化学工業㈱）

## 近況報告

伊藤 万里恵



現在、私はヤマサ醤油株式会社にて、医薬品・化成品のバイオ合成研究を行っています。社名を聞いて醤油やつゆ類の製造をイメージされる方が多いと思いますが、弊社は醤油醸造で培ってきた技術を発展させ、核酸関連化合物を医薬品や化粧品原料、栄養補助食品添加物として

製造発売する核酸関連化合物供給メーカーでもあります。私もメインに扱うのは核酸関連化合物ですが、基礎研究だけでなく、技術開発や製造に繋がるような検分など、様々なテーマで研究を行っています。まだまだ教わる事が多い修行の毎日ですが、大学6年間で学んだことが活かせる分野に身を置いていると実感しています。重くて講義のたびに持ち運ぶのが嫌だった教科書も、友人と貸し借りしながら作成した講義ノートも、就職した今でも私の強い味方です。また、研究発表や報告書作成の機会も多く、講義や研究室のセミナー、修士論文作成を通して先生方に叩き込んで頂いた、プレゼンテーションする際や資料を作成する際の注意点を心がけているつもりです。先生方の丁寧なご指導には大変感謝しております。

現在、私は千葉県に住んでおり、なかなか大阪を訪れる機会がありませんが、勉強に遊びに、大学6年間を共に過ごした友人とは、会えば今でも話題は尽きず、時間が経つのを忘れてしまいます。活躍を聞くと嬉しくなり、私も頑張ろうと励みになる存在です。社会人になって出来た友人とはまた一味違う、心の拠り所である友人との付き合いは末永く続けたいと思っております。

最後になりましたが、工学部及び同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念し、近況報告とさせていただきます。

（バイオ・平成21年卒・同23年前期博士課程修了・ヤマサ醤油㈱）

## 建築学科 (旧建築・旧環都一部)

### 建築学科の近況報告

梅宮 典子



卒業生の皆様には日頃より学科教育へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。建築学科の近況について、主任の梅宮が報告させていただきます。

進路では、4回生27名のうち進学15、公務員3、ゼネコン2、住宅メーカー2名などが、院生18名のうち設計5、住宅メーカー4、不動産4、ゼネコン3名などが内定しています。住宅メーカーは相変わらず人気ですが、ゼネコンの減少は最近の傾向です。3回生から就職活動が始まり、早くからの進路指導が必要になっています。

受賞では、まず宮本佳明先生が「澄心寺庫裏」で建築学会作品選奨を受賞されたことをご報告します。おめでとうございます。

学生の受賞では、塩原裕樹さんの「VITA-LEVEE」が、卒業設計日本一決定戦の600以上の応募のなかから4位に選ばれました。牡鹿半島の津波浸水ラインを活かしたインフラ計画が震災の記憶をとどめるとともに人々に安心感を与えるとして、力強いプレゼンも合わせて高く評価されたとのこと。また、安田康佑さんの卒業設計「crescendo」都心の単身労働者と親のための集合住宅は、釜山国際建築大展コンペで優秀賞を受賞しています。

他にも院生の谷口弘和さんの「変わるものと変わらないもの」がデザインレビュー2012・内藤廣賞、谷口・竹嶋大志・島拓央さんの「skeleton in -Art」が建築学会設計競技支部入選など、学生の意欲的な提案の受賞が続いています。建築学科の「デザインとエンジニアリングの総合教育」の成果として、皆様と喜びを分かち合うとともに、皆様の一層のご活躍もまたお祈り申し上げる次第です。

それにしてもこれらの作品の尖ったタイトルに、学生時代の思い出が甦りませんか。タイトルだけだと内容がわからないような…。

(工学研究科教授・建築学科主任教授)

### 近況報告

江口 和宏



学部と院とで6年間市大で過ごし、その後、現場施工管理としてゼネコンに入社しました。現在では、同会社の構造設計室に勤務しています。

入社志望としてまず現場を経験してから設計に移りたいとの希望を叶えてもらいました。施工管理としての初配属現場

はなんと、防災研究室に所属していたとき周辺風環境の風洞実験を手伝っていた建物でした。即ち、計画段階から建設・竣工まで携わったことになる思い出深いものになっています。

構造設計室に移り、早5年目になります。その中で携わった建物は多々ありますが、私が設計を行い建築確認・構造適合性判定を終了させたマンションが10件となりました。この中の1件については、阪神大震災の復興事業として補助金を活用したものでした。そんな復興事業がまだに行われている中で、昨年の東日本大震災が起こり、日本はいかに地震が多く、命を守る構造設計の責任の重さを再認識させられました。地震による建物への被害がようやく学会等により報告されだし、私たちのところでも構造スリットの設置基準等変更したのもでてきました。震災後、地震に対する安全性への関心・要求が高まっていますが、マンションの設計・販売説明資料作成を通じて、法や設計者が考える安全性と乖離があることを気付かされました。

「想定外」という言葉が、震災からよく聞かれますが、構造設計者として許容する「想定外」を見極められる設計者になれるよう精進しようと決意を新たにしました。

(建築・平成17年卒・同19年前期博士課程修了・㈱長谷工コーポレーション)

## 都市学科 (旧都基・旧環都)

### 都市学科の近況

大島 昭彦



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。一昨年の東日本大震災から早くも3年近く過ぎましたが、未だに余震が続き、Mw9.0の規模の大きさが再認識されるどころです。卒業生の皆様で震災の復旧・復興に携わっている方も多いかと思いますが、大学教員として、この教訓を後世にいかすように研究・教育を行いたいと考えています。

さて、学科教員の近況報告です。日野教授が2012年4月か

ら工学研究科長・工学部長の要職を務められています。同じく4月に鬼頭宏明准教授(構造及びコンクリート工学分野)が教授に昇任され、地盤工学分野に山田卓講師が採用されました。後者は長い人事凍結時代から久しぶりの学科採用人事となりました。さらに10月には松村政秀講師(応用構造工学分野)と鍋島美奈子講師(地域環境計画分野)が准教授に、佐久間康富助教(環境都市計画分野)と遠藤徹助教(環境水域工学分野)が講師に昇任され、都市学科のスタッフがより充実しました。一方で、中尾教授(地域環境計画分野)が2013年3月をもって定年退職されます。

2012年4月に都市学科1期生が4回生となり、学部は新学科学科体制に切り替わりました(ただし、旧学科である都市基盤工学科、環境都市工学科の学生がそれぞれ9名、8名在籍し

(次頁へ続く)

ています)。旧学科を含む4回生の進路は、大学院進学24名、公務員6名、民間会社等16名です。一方、大学院生の進路は、公務員2名、民間会社等31名です。

ご存じのように市大・府大統合の方向に舵が切れ、学部・学科編成も大きく変わる可能性があります。まだ見えないところもありますが、今後も引き続き、卒業生の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(工学研究科教授・都市学科主任教授)

## 近況報告

金井 重夫



「杭屋」として2社・30年、その多くを東京近辺で過ごして来ました。長さ8m前後の節付きコンクリート杭を扱っていた80年代は、先般、地盤の液状化で被災した浦安市など東京湾岸地域の建物の案件に関わることが多々ありました。私が就職した1981年には東京ディズニーランド(TDL)の建設工事が始まり、その南側の広大な埋立地でのホテル建設計画も進んでいました。吉見吉昭先生(現東工大名誉教授)のご指導の下、TDL敷地内の原地盤で液状化試験を実施する際には、先輩について周辺作業所に水位低下の工程を幾度となく確認しに行ったものでした。その後、シェラトングランデ東京ベイホテルの付帯施設の杭工事に長らく携わりました。東西線の浦安駅からバスでTDL運営会社前まで行き、そこから3、4km離れた現場まで、トラブル対応を含め100回程度も通いました。3000余本の節付き杭を打ち込む中で、お叱りと共に大成建設の方々に懇意にして頂いたこと、施工に参加した全業者が招かれた盛大な竣工記念パーティー等、今では良い思い出です。ちなみに、ホテルの植栽に要した費用は節付き杭工事費(約1億円)の2倍を上回ったそうです。

3.11地震発生時、東大先端研のホールで開かれていたニュージーランド地震の報告会に居て、緊急地震速報45秒前からの秒読みと、ほぼ正確に始まった大きな揺れ、収まる前の周期が徐々に伸びるような感覚、その後の帰宅までの混乱を経験しました。現在は、小径鋼管杭を用いた既設の土木構造物や建物基礎の耐震補強技術などに関わっています。どのような方法であれ防災・減災に向けた対策が間断なく取られ、より安全で憂いの少ない社会が築かれればと思っています。(土木・昭和56年卒・千代田工営株)



(大阪南港野島園)

## 近況報告

齋藤 仁美



大学を卒業し、約20年が過ぎました。その間、色々な事を経験することができました。

学生の頃、もう土木はいいかなと根拠のないことを考えていたにも関わらず、ゼネコンに就職し、その後転職をした際も、土木から離れる機会はあったのに、

最終的にはコンサルタントで仕事を続けています。自分で思う以上に土木との相性が良かったということでしょうか…。

平成17年から現職に就いています。ここでは、まず山陽新幹線はじめ湖西線等の耐震補強調査設計等の土木設計に関わっていました。平成23年からは、新設された環境デザイン室の一員となり、現在に至っています。

環境デザイン室では、系統技術に捉われない新たな技術提案が求められており、土木技術を基礎に建築、電気、機械、情報など他分野の技術者とのコラボレーションを通じて環境負荷低減の実現を模索しています。具体的には、もともとエネルギー効率の高い鉄道ですが、より一層多くの方に鉄道をご利用して頂けるようエコステーションへの取り組み支援の実施、環境影響評価業務、騒音・振動調査や土壌汚染調査などの現地調査業務など、多岐にわたります。これからも、軸となる個人の技術を常に高め高い意識を持って取り組んでいきたいと思っています。

最後に、皆様方の益々のご活躍をお祈りしています。  
(土木・平成4年卒・ジェイアール西日本コンサルタンツ株)

## 近況報告

高原 一貴



工学部卒業生の皆様、こんにちは。私は平成23年3月に環境都市工学科を卒業し、平成25年3月には工学研究科都市系専攻の都市計画修了後の4月からは榊大林組で働かせていただく予定です。

私は大阪の中之島が好きで、卒業論文でも中之島の夜景を扱った程ですが、都市計画研究室でも、水都大阪という言葉がとても身近になり、「水都大阪フェス」にサポーターの一員として研究室の仲間と一緒に関わったり、水の回廊を小舟で遊覧するまち歩きを開催したり、水都大阪絡みの研究を始めたりする学生も増えていきます。

また私は、まちづくり研究団体「船場アートカフェ」で働かせていただき、研究室が長く関わっている中央区北船場での活動も多くなりました。毎年11月頃に開催される「船場博覧会」では、都市のオープンスペースでアジア音楽ライブを演奏したり、高級料亭「吉兆」の協力で餅つきを行ったりと、船場のあちこちに人が賑わう光景が見られます。

さて、皆さん。平成24年10月に、大阪初の橋上カフェが開催されたのはご存知でしょうか? テレビでも話題になったのですが、水都大阪フェスの期間に併せ、「中之島ガーデン

(次頁へ続く)

リッジ」という橋の上で、オープンカフェが出店されました。私はこの社会実験に関わっており、修士論文のテーマとしてまとめるべく、研究を進めています。水都関連のイベントに関わりながら研究ができる今の環境にとっても感謝しています。

以上のように、私が大学院に進んでからというもの、大変貴重な時間を楽しく過ごさせていただいています。4月からは社会人として、精一杯活躍していきたいと思っています。

(環都・平成23年卒・前期博士課程2回生)



「水都まち歩きクルージング」

---

---

## 全学同窓会 《大阪市立大学同窓会》 発足

大阪市立大学には、文系4学部（商・経・法・文）の同窓会である有恒会、理学部同窓会、工学部同窓会、生活科学部同窓会、医学部同窓会、看護系同窓会よつば会及び創造都市研究科同窓会があり、昨年10月まではそれぞれ独自の活動をするとともに、各同窓会の会長・副会長で構成された大阪市立大学同窓会連絡会の下にオール市大的な同窓生行事や母校支援活動が実施されてきました。

また、2005年（平成17年）に大阪市立大学学友会が設立され、すべての母校関係者による大阪市立大学コミュニティーの形成を目指すとともに、公立大学法人化される母校の発展に貢献するための種々の教育・研究の支援事業が続けられてきましたが、母校関係者からの財源的な協力を依存する支援事業の進展のみならず、殆ど取り組めなかった「市大コミュニティーの形成」に関わる活動も難しくなりました。

そこで、学友会を学生の保護者を中心的な会員とする「大阪市立大学教育後援会」に改組する一方、従来から大学や同窓生より切望されてきた全学統一同窓会を立ち上げることになり、同窓会連絡会主催で平成24年11月3日に開催の第11回ホームカミングデーの開会の集いにおいて、全学同窓会「大阪市立大学同窓会」の設立が承認され、同時に承認された初代の会長・副会長および会則は以下の通りです。

### 会長・副会長名簿

- 1) 会長：児玉隆夫（理学部同窓会顧問・昭和43年理院）
- 2) 副会長：倉持治夫（有恒会々長・昭和48年商）、市村彰男（理学部同窓会々長・昭和46年理院）、宮本万功（工学部同窓会々長・昭和43年）、生野弘道（医学部同窓会々長・昭和44年）、岸本幸臣（生活科学部同窓会々長・生昭和38年）、白田久美子（よつば会々長・看昭和44年）、喜多繁幸（創造都市研究科同窓会々長・創院平成24年）

## 大阪市立大学同窓会会則

(名称)

第 1 条 本会は、大阪市立大学同窓会と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、大学と会員との連携・交流ならびに会員相互の連携・交流を図るとともに大学の発展を支援することを目的とする。

(事業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行なう。

- (1)大学の発展を支援する事業
- (2)大学と会員との連携・交流ならびに会員相互の連携・交流に関する事業
- (3)各同窓会が行なう諸活動を支援する事業
- (4)その他本会の目的達成に必要な事業

(会員)

第 4 条 本会は、下記の会員をもって構成する。

- (1)正会員・・・卒業生（前身校を含めた全ての卒業生）
- (2)準会員・・・在學生（学部学生、大学院学生）
- (3)賛助会員・・・本会目的に賛同し事業活動を支援する個人及び団体

(本部)

第 5 条 本会は、本部を大阪市住吉区杉本3丁目3番138号大阪市立大学内におく。  
なお、本会の事務局は本部内におく。

(役員)

第 6 条 本会に次の役員をおく。

- (1)会長 1名
- (2)副会長 7名（各同窓会から代表1名で構成）
- (3)監事 若干名

(役員を選任・任期)

第 7 条 役員を選出にあたっては、総会で承認を受ける。また役員任期は2年とし再任を妨げない。  
2 補欠または増員により、選出された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。  
3 役員はその任期終了後でも後任者が就任するまでは、なお、その職務を行なう。

(役員職務)

第 8 条 会長は本会を代表し会務を統括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 3 監事は本会の会計及び会務について監査するとともに、役員会に出席し意見を述べることができるものとする。

(会の運営と会務の執行)

第 9 条 本会の運営組織として役員会及び会長・副会長会をおく。

- 2 役員会は会長・副会長及び監事をもって構成する。
- 3 役員会は会長の招集により以下の事項を審議しこれを決定する。但し、監事は決定には加わらないものとする。
  - (1)事業計画案及び事業報告案
  - (2)予算案及び決算案
  - (3)会則の改廃に関する案
  - (4)会務に関する重要な事項及びその他会長が必要と認めた事項
- 4 会長・副会長会は会長及び副会長をもって構成し、会長が必要に応じて招集し、会務を審議し決定する。また、その実行機関として常設委員会等各種委員会を設置することができる。
- 5 本会の会務の執行は、会長が会長・副会長会の補佐の下に行なう。

(総会)

第 10 条 本会の定期総会は年1回、11月に開催する。

- 2 総会は正会員をもって構成する。

- 3 総会は会長が招集し、議長として総会に次の事項を付議し、その承認を受けなければならない。
- (1)事業計画及び収支予算 (2)事業報告及び収支決算  
(3)資産管理に関する事項 (4)会則の改廃に関する事項  
(5)その他役員会が必要と認めた事項
- 4 総会の議事は正会員である出席者の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 会長が必要と認めるとき臨時総会を開催することができる。

(会計)

第 11 条 本会の活動に伴う経費は下記をもって充てる。

- (1)大学支援事業費  
(2)各学部同窓会から拠出される負担金  
(3)個人及び団体からの寄附金

2 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日とする。

付則

(施行期日)

本会則は平成24年11月3日から施行する。

## 学友会を教育後援会へ改組

大阪市立大学学友会は、全ての大阪市大関係者の連帯と絆を一層強めて大阪市大コミュニティをつくり、母校の教育・研究や学生の課外活動の支援、会員相互の親睦の促進、会員に資するサービス・情報の提供などの実現を目指して、2005年（平成17年）に設立されました。

しかし、学友会の設立目的に適う運営が財源的に難しくなったため、学生の支援に特化した「大阪市立大学教育後援会」に改組されることになりました。この後援会は保護者会員、支援会員および賛助会員で構成される予定で、学友会の同窓生会員・支援会員及び賛助会員には、支援会員及び賛助会員になっていただくよう要請される予定です。

## 工学部同窓会奨学生の第1号が誕生しました

工学部同窓会設立50周年を記念事業の一貫として、平成22年度入学生から「工学部同窓会奨学金」制度を実施しはじめました。設立50周年記念募金（平成21年9月～平成23年3月）からの850万円と、同窓会の保有資産からの3000万円が運営資金です。

本奨学金の特徴は、経済的理由により入学後の修学に困難が予想される優秀な高校生に対して、入学試験の前に入学後の奨学金貸与を内定し、入学試験に合格した場合には入学手続き時より奨学金を無利子で貸与するという制度です。

実施して3年目、平成24年4月入学生にはじめて奨学生1名が誕生しました。入学手続き時に50万円を貸与し、今後は2、3、4年進級時にそれぞれ25万円を貸与する予定です。

なお、奨学生募集要項は工学部同窓会のホームページに掲載しています。

## 事務局年報 (2011・12～2013・1)

### 2011年(平成23年)

12月 : 奨学金内定通知書送付 (8日)。  
 会報第27号の発送完了・事務局直接配布開始 (15日)。  
 第20期第4回理事会にて第23回評議員会、役員選定等を検討 (15日)。

### 2012年(平成24年)

1月 : 高桑・志野両監事の会計監査 (25日)。  
 2月 : 第23回評議員会開催通知を発送 (8日)。  
 第20期第5回理事会にて第23回評議員会の議案を検討・決定 (9日)。  
 工学部学生「工場見学会」で(株)ダイヘン六甲事業所へ学生29名参加 (15日)。  
 3月 : 市大の学術情報総合センター文化交流室にて第23回評議員会を開催、第20期1年目(2011年度)の経過と収支決算報告及び会計監査報告、第20期2年目(2012年度)の理事の改選・事業計画・予算を承認。  
 その後の「第9回キャンパス交流会」では、工学研究科の大島昭彦・重松孝昌両教授の講演を拝聴の後、懇親会を催し、医学部同窓会長、友恒会副会長等ご列席のもと65名の同窓が絆を深め合った (3日)。  
 平成24年度新入生への当学生会則・案内・会報及び学友会入会要請書の配布を工学部事務室に依頼 (5日)。  
 卒業・修了生宛送別文書と会費納入要請書の配布を各学科理事等に依頼 (15日)。  
 工学部大講義室における「工学部・工学研究科送別式(学部卒業:266名、前博修了:186名、後博修了:3名)」に宮本会長及び理事有志が出席 (23日)。  
 新入生1名に奨学金貸与 (13日)。  
 4月 : 新入生への学友会入会受付支援 (6日)。2012年度入学式が大阪市中央体育館にて挙行される。(5日)。  
 5月 : 第119回市大ボート祭に協賛アドバルーンを掲揚 (21、22日)。  
 7月 : 第2回市大同窓会連絡会役員会・運営委員会で本年度同窓会費の配分案確定 (2日)。  
 第11回ホームカミングデー第1回実行委員会で今年度の取組を検討 (6日)。  
 第20期第6回理事会で、統一同窓会、新学友会、同窓会費徴収方法等についての検討 (11日)。  
 8月 : 工学学術情報交流センターの夏季休館 (13～17日)。  
 9月 : 第20期第7回理事会で工学部同窓会費徴収方法、評議員会の日程等について検討。(26日)。  
 10月 : 第11回ホームカミングデー案内状を理事・評議員・記念募金拠出者を中心に送付 (17日)。  
 11月 : 会長・名誉会長・定年恩師・学科主任・卒業生に会報28号原稿の依頼状を発送 (1日)。  
 第11回ホームカミングデーに同窓会員30名参加 (3日)。  
 第20期第8回理事会で工学部同窓会費徴収方法、評議員会の日程等について議論 (7日)。  
 平成25年度工学部同窓会奨学金奨学生募集開始 (12～16日)、3名応募。  
 12月 : 奨学金貸与者決定審査委員会開催 (6日)。  
 会報28号の初稿を開始 (15日)。  
 第20期第9回理事会で第24回の評議員会と同窓の集いの開催日程を決定 (20日)。

### 2013年(平成25年)

1月 : 平成24年度会計監査 (17日)。第20期第10回理事会で第24回評議員会の議案を検討 (23日)。

### (1)第20期第1年度(2011年1月～12月)収支決算報告

#### (イ)経常費収支決算表(円)

| 収 入    |           | 支 出   |           |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 終身会費   | 3,972,500 | 会議費   | 168,215   |
| 預金利息   | 931       | 行事費   | 107,306   |
| 雑収入    | 0         | 会報    | 1,604,344 |
| 経常寄付   | 231,000   | 会員名簿  | 178,500   |
| 前期より繰越 | 5,658,681 | 協賛費   | 678,411   |
|        |           | 渉外費   | 5,481     |
|        |           | 事務局費  | 2,666,240 |
|        |           | 通信費   | 44,492    |
|        |           | 事務費   | 110,259   |
|        |           | 備品費   | 245,990   |
|        |           | 次期へ繰越 | 4,053,874 |
| 合 計    | 9,863,112 | 合 計   | 9,863,112 |

#### (ロ)借貸対照表(2011年12月末、円)

| 借 方  |            | 貸 方   |            |
|------|------------|-------|------------|
| 振替口座 | 269,454    | 累計剰余金 | 5,658,681  |
| 普通預金 | 1,631,552  | 当年剰余金 | △1,604,807 |
| 定期預金 | 52,704,267 | 特別基金  | 50,551,399 |
| 合 計  | 54,605,273 | 合 計   | 54,605,273 |

### (2)第20期第1年度(2011年度1月～12月)理事会役員

会 長: 宮本万功 (機43)  
 副会長: 近藤敏一 (化37)、木村雅之 (電51)、小林俊明 (土44)、柳川重昌 (物44)、谷口徹郎 (建59)  
 理 事: 人見宗男 (機31)、南斎征夫 (機39)、東 恒雄 (機41)、笠上文男 (機50)、吉田 稔 (機52)、瀧山 武 (機59)、栗政幸一 (電31)、建部 渉 (電35)、行藤三男 (電36)、山口南海夫 (電44)、南 繁行 (電45)、前谷治男 (電51)、村治雅文 (電62)、山田文一郎 (化修40)、三浦洋三 (化42)、西口克彦 (化43)、大嶋 寛 (化49)、小河一真佐 (建26)、上堂竹壽 (建35)、貴志義昭 (建41)、坂 壽二 (建42)、湊勝比古 (土41)、辻江賢治 (土48)、日野泰雄 (土50)、大島昭彦 (土55)、田守芳勝 (物38)、和倉慎治 (物45)、宇佐美照夫 (物46)、大前秀治 (物56)  
 監 事: 高桑久茂 (電46)、志野太一 (物40)

### (3)第20期第2年度(2012年1月～12月)事業計画

- ①会報第28号の12月上旬発行・配布。
- ②工学部・全市大行事及び事業への協力。
- ③会員相互の親睦交流の促進。
- ④特別基金の運用と有効活用。
- ⑤設立50周年記念事業。
- ⑥準会員(在学生)の工場見学の実施
- ⑦経常費収支差の改善

#### (4)第20期第2年度経常費予算(円)

| 収 入    |           | 支 出   |           |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 終身会費   | 3,942,000 | 会議費   | 180,000   |
| 預金利息   | 1,000     | 行事費   | 160,000   |
| 雑収入    | 0         | 会報    | 1,500,000 |
| 経常寄付   | 200,000   | 会員名簿  | 180,000   |
| 前期より繰越 | 4,053,874 | 協賛費   | 350,000   |
|        |           | 渉外費   | 20,000    |
|        |           | 事務局費  | 2,500,000 |
|        |           | 通信費   | 50,000    |
|        |           | 事務費   | 120,000   |
|        |           | 備品費   | 100,000   |
|        |           | 次期へ繰越 | 3,036,874 |
| 合 計    | 8,196,874 | 合 計   | 8,196,874 |

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2013.2.1現在)

| 機械工学科      |               | 電子・物理工学科   |            | 情報工学科      |              |    |  |
|------------|---------------|------------|------------|------------|--------------|----|--|
| 西村 伸也 2664 | 澤田 吉裕 2660    | 重川 直輝 2676 | 中山 正昭 2739 | 會田 田人 2678 | 岡 育生 2779    |    |  |
| 伊與田浩志 2963 | 逢坂 勝彦 2962    | 武智 誠次 2677 | 金 大貴 3087  | 向井 孝彰 2792 | 阿多 信吾 2191   |    |  |
| 加藤 健司 2665 | 山崎 友裕 2181    | 白藤 立 2681  | 中山 弘 3088  | 宮崎 大介 2877 | 原 晋介 2795    |    |  |
| 脇本 辰郎 2965 | 大島 信生 2961    | 村治 雅文 2976 | 福田 常男 2738 | 辻本 浩章 2685 | 杉山 久佳 2796   |    |  |
| 川合 忠雄 2667 | A・ビノグラドフ 3049 | 田中 健司 2975 | 細田 誠 2742  | 高橋 秀也 2679 | 辻岡 哲夫 2772   |    |  |
| 今津 篤志 2662 | 兼子 佳久 2179    |            | 菜嶋 茂喜 3089 |            | 柳原 圭雄 2773   |    |  |
| 佐藤 嘉洋 2670 | 横川 善之 2743    |            | 小林 中 3030  |            | 鳥生 隆 2684    |    |  |
| 川上 洋司 2668 | 岸田 逸平 2193    |            | 寺井 章 2748  |            | 中島 重義 2683   |    |  |
| 瀧山 武 2672  |               |            | 杉田 歩 2904  |            | ティティズイン 3096 |    |  |
| 高田 洋吾 2970 |               |            |            |            | 田窪 朋仁 2778   |    |  |
|            |               |            |            |            | 上野 敦志 3081   |    |  |
| 化学バイオ工学科   |               | 建築学科       |            | 都市学科       |              | 共通 |  |
| 小槻 勉 2693  | 北村 昌也 2782    | 谷池 義人 2764 | 内田 敬 3099  | 鬼頭 宏明 3050 | (応用数学)       |    |  |
| 有吉 欽吾 2791 | 中西 猛 2783     | 谷口 徹郎 2707 | 吉田 長裕 2731 | 角掛 久雄 2723 | 多羅間茂雄 2669   |    |  |
| 畠中 康夫 2979 | 大嶋 寛 2700     | 谷口与史也 2709 | 日野 泰雄 2730 | 山口 隆司 2765 | (機械工作室)      |    |  |
| 南 達哉 2980  | 五十嵐幸一 2699    | 吉中 進 2708  | 佐久間康富 2717 | 大島 昭彦 2996 | 吉岡 真弥 2967   |    |  |
| 松本 章一 2981 | 長崎 健 2696     | 藤本 益美 2989 | 西岡 真稔 2718 | 山田 卓 2725  |              |    |  |
| 佐藤絵理子 2982 | 東 秀紀 2168     | 木内 龍彦 2706 | 鍋島美奈子 2719 | 重松 孝昌 3078 |              |    |  |
| 辻 幸一 3080  | 田辺 利住 3094    | 梅宮 典子 2710 | 矢持 進 2175  | 貫上 佳則 2728 |              |    |  |
| 米谷 紀嗣 2984 | 立花 亮 2702     | 中尾 正喜 2993 | 遠藤 徹 2732  | 水谷 聡 2727  |              |    |  |
| 小島 誠也 2797 | 東 雅之 3092     | 横山 俊祐 2199 |            |            |              |    |  |
|            | 立花 太郎 2167    | 徳尾野 徹 2713 |            |            |              |    |  |
|            |               | 宮本 佳明 2714 |            |            |              |    |  |
|            |               | 倉方 俊輔 2176 |            |            |              |    |  |
|            |               | 松村 政秀 2735 |            |            |              |    |  |
|            |               | 嘉名 光市 2715 |            |            |              |    |  |
|            |               |            |            |            | 事務室等         |    |  |
|            |               |            |            |            | 教務担当 2653    |    |  |
|            |               |            |            |            | 庶務担当 2651    |    |  |

編集後記

同窓会だより第28号をお届けいたします。本号の発行が約三ヶ月遅れとなったことお詫び申し上げます。

130年の歴史を有する大阪市大にはこれまで全学を統一する同窓会がなかったのには不思議に思われるかも知れませんが、大阪府・市の統合施策が進行するなかで、昨年11月ようやく全学統一の同窓会「大阪市立大学同窓会」が設立されました。

一方、7年前に大阪市大の教育・研究援助を目的として設立された学友会は財政的な基盤が脆弱で今回、新しい教育後援会に変わることになり、大阪市大を支援する二つの新組織がほぼ同時に発足することになります。

今後、大阪市立大学同窓会ははじめ各学部同窓会には、一層の会員連携を深めるとともに、同窓会の特徴を活用した在校生への種々の支援を行うことが求められています。

当面、全学同窓会、特に各学部同窓会の財政基盤の確立が避けられず、会員の皆様には種々ご協力をお願いすることになると思います。

なお、学友会の改組で、本年度から各学部同窓会が独自に会費を徴収せねばなくなり、当会の理事会で会費の徴収方法を検討し始められた時点では、新入生からの同窓会費の徴収が不可能な場合も考えられ、その場合には「徴収方法の変更案を2月の評議員会で承認を得、会員各位へのお知らせと会費納入のお願い」を28号に掲載するため、評議員会後に発行することになりました。

ところが、幸いなことに「従来通りに新入生に入学・会費の納入を依頼すること」について、各学部同窓会および大学の協議が纏まりましたので、本年の新入生には現会則の同窓会費を当会独自で要請できることになりました。

しかし、大阪府・市統合の新聞報道を見ますと、年会費の導入などを考えておくことも大切のように思われます。

(近藤 紘一)

編集委員

○近藤 紘一 (応化：昭和37年卒)  
山田文一郎 (応化：昭和40年修)  
谷口 徹郎 (建築：昭和59年卒)

人見 宗男 (機械：昭和31年卒)  
大嶋 寛 (応化：昭和49年卒)  
大島 昭彦 (土木：昭和55年卒)

瀧山 武 (機械：昭和59年卒)  
村治 雅文 (電気：昭和62年卒)  
田守 芳勝 (応物：昭和38年卒)

(○印：委員長)

# “工学部同窓会の集い”

## —同窓懇親パーティー2013—

本年度の“工学部同窓会の集い”を下記の通り開催いたします。

当日は、石巻市の復興事業に携わってこられた、貴志義昭氏（大阪市立大学工学部同窓会理事・昭和41年建築卒）に「復興状況について」、大嶋寛氏（大阪市立大学特命副学長・大阪市立大学工学部同窓会理事・昭和49応化卒）に「大阪市立大学の近況について」、お話をして頂きます。

また、工学研究科長兼工学部長にもご出席いただく予定ですので、同期生や職場の同窓生等をお誘い合わせの上、ご参加下さるようお待ちしております。

特に、ミニ・クラス会やミニ職域会としてのご参加は大歓迎です。

### 記

★日 時：2013年4月12日（金曜日）、午後6時30分～午後8時30分

★会 場：グランド白楽天（阪急グランドビル27階）

大阪市北区角田町8-47

（TEL：06-6315-8383）

JR大阪駅徒歩約3分、阪急梅田駅徒歩約4分、地下鉄梅田駅徒歩約3分

★会 費：5,000円（当日受付）



- 申込方法** (1)連絡事項：①ご氏名、②学科(専攻)名、③ご卒業(修了)年、④ご住所  
(2)方 法：ハガキ、FAXまたはe-mail  
(3)期 日：2013年4月1日(月)
- 申 込 先** 大阪市立大学工学部同窓会事務局  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
FAX = 06-6605-2769  
メールアドレス = dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp